

箕面市地域公共交通活性化協議会
第5回 路線バス網再編検討分科会 会議録

1. 日 時

令和2年3月10日（火） 午前10時00分～午前11時10分

2. 場 所

箕面市役所 本館2階 特別会議室

3. 出席者

（会長）

- ・大阪大学大学院工学研究科教授 土井健司

（副会長）

- ・富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科准教授 猪井博登

（委 員）

- ・阪急電鉄株式会社交通プロジェクト推進部副部長 越智厚
（代理出席）交通プロジェクト推進部交通まちづくり担当調査役 蓬郷裕之
- ・阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部副部長 野澤俊博
- ・近畿地方整備局大阪国道事務所高槻維持出張所長 徳永晋哉
- ・大阪府池田土木事務所地域支援・企画課企画グループ長 北川信治
- ・大阪府箕面警察署交通課長 阿古敏浩
- ・国土交通省近畿運輸局交通政策部交通企画課長 原辰幸（オブザーバー）
（代理出席）交通企画課課長補佐 金澤重之
- ・箕面市みどりまちづくり部道路管理室長 波多野輝
- ・箕面市地域創造部副部長 岡本秀
- ・箕面市地域創造部箕面営業室長 柴田大
- ・公募市民 中尾佳生

（欠 席）

- ・北大阪急行電鉄株式会社延伸事業部調査役 小林孝安
- ・大阪高速鉄道株式会社総務部総務課長 檜原昭紀
- ・箕面市健康福祉部健康福祉政策室長 橋本実華
- ・公募市民 中西昭弘

以上、委員15名のうち11名出席、オブザーバー1名出席

4. 議 題

- （1）アンケート集約結果案の検討について
- （2）令和2年度分科会スケジュールについて
- （3）その他

5. 議事要旨

(1) アンケート集約結果案の検討について

【検討内容は次のとおり。】

○アンケート集約結果案は、利用者・市民アンケート結果の意向を機械的に反映しているが、阪急バス案作成の考え方は。

→阪急バスとしては、利便性を確保するため、鉄道との並行路線は廃止し、駅勢圏ごとの需要を確認した上で、採算性や効率性が確保できるように、現在のバス路線をベースに作成した。

○北大阪急行線延伸区間（鉄道）との並行路線について考えは。

→鉄道との並行路線については、利用者が利便性の高い鉄道を選択することにより、路線の維持が困難となることから、近鉄けいはんな線やJRおおさか東線などの他事例からしても、一般的には、鉄道と並行したバス路線は廃止されるケースが多い。

鉄道との並行路線における利便性を検証するために、新駅でのバスから鉄道への乗り換えによる速達性について検証する必要がある。

→新駅でのバスから鉄道への乗り換えによる速達性については、次回の分科会で検証結果をお示しする。

○鉄道との並行路線を廃止した場合の運賃について、バスと鉄道の乗り継ぎ割引を実施している事例等を参考にして、今後検討する必要があると考えるが見解は。

→鉄道との並行路線を廃止した場合における利用者の運賃負担を考慮したバスと鉄道との乗り継ぎ割引については、他市の事例等を参考にしながら、財源の確保策を含めて、令和3年度以降に検討する。

○アンケート集約結果案と阪急バス案で相違点が生じる理由は。

→市と阪急バス(株)では、需要予測方法や採算性の検証方法に乖離が生じている。

相違する需要予測方法や採算性の検証方法については、引き続き市と阪急バス(株)で協議調整を進めていく。

○採算性の検証についての見解は。

→採算性については、現段階ではあくまでも想定でしかなく、鉄道が開業してから初めて分かるもの。想定範囲内での検証は必要であるが、ある一定再編を行った後に、その結果を把握しながら柔軟に対応していくことも必要である。

○阪急バス案は、阪急バス(株)が、自社の営業路線として経営判断をした上で作成した路線案である中で、アンケート集約結果案を進めるために、事業者に対して何らかの補助やオレンジゆずるバスが担う路線等を考える必要があると考えるが、協議会・分科会として、バス路線再編の検討をどのように進めていくのか。

→北大阪急行線延伸に伴うバス路線の再編は、協議会・分科会で地域公共交通網形成計画を作成する中で検討していくものである。

これまで、協議会で実施した利用者・市民アンケート結果を分析し、バス利用者や市民の意向を把握してきており、それら検討の積み上げをもとに、バス利用者や市民の意向を踏まえた路線案がアンケート集約結果案である。

一方で、バス路線再編が、阪急バス(株)の営業路線である視点は、非常に重要と考えている。
今回は、アンケート集約結果案と阪急バス案の相違点についてご確認いただいております、今後は、分科会や協議会でご意見をいただきながら、阪急バス(株)が営業路線として路線を維持できるか、需要予測、採算性、速達性について検証した上で、市と阪急バス(株)で協議、調整をし、バス路線再編案を検討したいと考えている。

○現段階で、バス路線再編案における運行ルートの検討について、道路の構造等を含めて、新駅への具体的な乗り入れ動線についても議論するのか。

→今回お示ししているアンケート集約結果案は、アンケート結果意向をもとに、現在のバス路線をベースとして、新駅への乗り入れ方法は合理的な運行ルートとして設定しており、現段階では、バス路線再編に係る全体の運行ルート案についてご確認いただきたい。

道路の構造等を踏まえた、詳細なバスの運行方法については、今後市と阪急バス(株)で協議、調整する。

○アンケート集約結果案において、箕面中央線のうち、池田市東畑から箕面駅方面を経由するルートが無くなっているが、存続させることはできないのか。

→ゾーン別のアンケート分析結果から、西部地域のゾーン1、ゾーン4から箕面萱野駅や千里中央駅への意向があったことから、白島線、箕面中央線でアクセスできるように路線を設定している。箕面中央線の東畑、新稲、箕面駅方面を経由するルートについては、ゾーン1、ゾーン4の箕面萱野駅、千里中央駅への意向を現在の白島線で満たすことができると考え、廃止している。

今回お示ししているアンケート集約結果案については、分科会の中で検討いただくベースの案であることから、いただいたご意見を含めて今後検討を進めていく。

○バス路線の再編の中では、将来の道路計画についても議論していくべきではないか。

→本市の道路計画については、現在、都市計画審議会でも都市計画道路の見直しについて検討しているところ。都市計画道路の見直しの中で、現状からの変更点等があれば、情報を共有し、バス路線再編の検討にフィードバックする。

(2) 令和2年度分科会スケジュールについて

【検討内容は次のとおり。】

○令和2年度9月、3月に実施予定のパブコメ・説明会のねらいは。

→9月のパブコメ・説明会では、バス路線再編について、運行ルート案をお示しさせていただく。

現在、アンケート集約結果案と阪急バス案で相違している需要予測や採算性について、市と阪急バス(株)で協議、調整し、再編案を1つに集約した運行ルート案について、市民の方々からご意見をいただくことを想定している。

3月のパブコメ・説明会では、9月のパブコメでいただいたご意見を踏まえた運行ルート案に加え、運行本数案について、バス路線再編案としてとりまとめご意見をいただく予定としている。

○9月のパブコメに出される案は、あくまでアンケート結果の集約案と認識しており、阪急バスとしてはルート、運賃、頻度、経営資源を踏まえて経営判断した当社案が議論の前提と考えている。

従って当社として責任を持てるのは当社案のみであり、アンケート結果の運行ルート案ありきで議

論が進むのは違うと考えている。また、運行ルートだけではなく、運行頻度・運賃・当社の経営資源についても同時に議論を進めるべきと考えている。

→運行ルート等の検討については、全て同時進行ではあるが、今回の分科会では、まずは、鉄道との並行路線について議論すべき。

→進め方については、市と阪急バスで協議・調整し、分科会や協議会でも確認させていただく。

○運行ルート案の決定にあたっては、2回パブコメを経て、完全に決めてしまうのか、あるいは、運行開始後の社会実験の中でも検証して決めていくのか。

→令和2年度に2回パブコメを実施し、バス路線再編案における運行ルート案と運行本数案について、計画段階の案として決定するが、鉄道の開業後、社会実験としてバスを運行し、利用者の利用動態や採算性を検証しながら、路線を調整する必要があると考えている。

○9月のパブコメでは鉄道も含めた市内公共交通全体に対するパブコメという位置づけとして、バス路線再編に係る運行ルート案については、鉄道開業後の利用実態を確認の上、柔軟に対応していくことを前提に市民の方々からご意見をいただくべきと考えるが見解は。

→9月のパブコメでの具体的内容については、阪急バス(株)と調整した上で、今後の分科会の中でも確認させていただく。

(3) その他

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○特になし

以上